

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同

海洋生物学分科会

第25期第1回会議 議事要旨

日 時： 令和3年1月21日（木）15：00～17：00

場 所： オンライン（Zoom、主催窪川）

出席者： 大路樹生、川井浩史、岸本健雄、窪川かおる、白山義久、中田薫、西田宏記、
萩原篤志、原田尚美、堀利栄、三村徹郎、渡部終五（五十音順）

欠席者： 長里千香子

議 題

議事に先立ち、分科会世話人である三村委員より出席者の定足数確認がなされた。

1. 役員を選出（資料1）

自己紹介の後、役員選出を行い、委員長に大路委員、副委員長に川井委員、幹事に窪川委員を決定した。推薦のあった幹事候補1名は後日の承諾を得て決定とする。

2. 第24期からの引継ぎ事項について

窪川前委員長より第24期の活動について、分科会5回、シンポジウム1回、「学術の動向」特集、マスタープラン提案、ロードマップ提案を行い、提言は準備で終わっているとの説明があった。

3. 第25期の活動方針について（資料2, 3, 4, 5, 6, 7）

第25期の活動は、前期の実績に基づく活動の継承をするとともに、提言の発出をすることとなった。資料2に基づいて当分科会の活動について意見交換した。さらに日本学術会議の在り方などに関して資料3, 4を参考にして意見交換し、日本学術会議の役割・活動に対する誤解を解く必要があるなどの意見が出された。当分科会とSCOR分科会で企画した「学術の動向」令和3年1月号の特集『「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」を多様な視点から考える』の紹介が窪川委員よりあった（資料5）。これに関連して、Global Ocean Science Report 2020の説明が編集委員である白山委員よりあり、海洋科学を中心とする各国比較は日本の海洋分野にとって重要なデータであるとの認識を共有した（資料6）。さらに、資料7について中田委員より説明があり、海洋生物研究の今後について意見交換した。

4. 分科会委員構成について

安田仁奈連携会員が新委員として承認された。窪川委員より特任連携会員として北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所の仲岡雅裕教授が推薦され、承認された。

5. その他

- 1) 堀委員より2月15日(月)開催の学術会議主催学術フォーラム「新たな地球観への挑戦―地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献―」(オンライン開催)の紹介があった。
- 2) 海洋生物学分科会の活動内容について意見交換した。海洋生物学研究に関する情報発信の重要性が議論され、そのひとつとしてGlobal Ocean Science Report 2020の概要を分科会で翻訳することとなった。また情報発信の場としてのプラットフォームを作る案が出された。
- 3) 岸本委員より資料8に基づき、(一社)国立沖縄自然史博物館設立準備委員会による機関誌「ナチュラル ヒストリー ミュージアム」第1号の出版と2月14日(日)のシンポジウム「国立自然史博物館誘致シンポジウム～沖縄に自然史博物館があったなら～」の開催および国立自然史博物館設立活動の進捗について説明があった。

資 料

1. 第25期海洋生物学分科会名簿
2. 第25期の分野別委員会、分科会等の活動について(お願い)
3. 日本学術会議の改革に向けた提言 20201209 200957__1
4. 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)
5. 学術の動向 特集目次
6. Global Ocean Science Report 2020 抜粋
7. 海洋生物研究に関する今後の在り方について(改訂本文):文部科学省
8. 国立沖縄自然史博物館関係

以上